

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年4月16日)

里仁第四

23 子曰く、約しいわを以て之を失やく もつう者は鮮これ うしなし。

孔子は言うには、控え目に控え目に行動したり発言をしていけば、大きな失敗をすることは非常に少ない。

あまり大言壮語はしない方が良いということです。

私はいつも渋沢栄一の『論語講義』と合わせて読みます。ちなみに渋沢栄一さん曰く、不言実行型の人物として西郷隆盛と山縣有朋を挙げています。大隈重信は非常に雄弁であるけれども、なかなか実行は難しいと批評しています。不言実行型の西郷隆盛は死んだ時にその徳を慕う方が非常に多かったけれども、山縣有朋は国から戴く収入では絶対に造れないような別荘が日本各地にあったということで、輦轡をかった部分がかかなりあって、国葬と決めたとはいえ国民はあまりそれに従わなかったという記述が残っています。今の時代にあわせてみたらどうなのかと感じます。

24 子曰く、君子は言に訥しいわにして、行に敏くんし げん とつならんことを欲こう びんす。

孔子が言うには、立派な人物は発言は軽々しくしないものだ。しかし、行いは敏捷であれ、と。

言行一致を考えなさいということだと思います。

素晴らしい人物は発言を軽々しくしないという部分で、鳩山さんをみると、発言が軽い。そして逆に行動は尻が重くて、何も手が打てないというのが現状のようでございます。民主党の内も発言が多いですね。次の大臣は誰か、菅さんの名前が出ていますが、対抗馬で仙谷さんの名前が出て、ダークホースが原口さんという名前も出ています。軽々しく発言しないのが良いにもかかわらず、自分たちで盛んにアドバルーンを揚げていますので、大分孔子の時代とは違うと感じます。

25 子曰く、徳は孤しいわならず、必とく こず鄰かなら りんあ有り。

孔子が言うには、道徳を実践する者は孤立しない。道徳を実践する人間の周りには、必

ず理解者が出てくるものだ。

有徳の士の周りには、だんだん人が集ってくると理解すればよいでしょう。

『論語講義』では、そのような人物として中江藤樹、二宮尊徳、弘法大師、帆足万里という人達の名前が出ています。弘法大師は高野山で居を構えたところ、その徳を慕って一緒に修行をしたいという人達が集ったと言われますし、帆足万里は田舎の山中に隠居したところ、押し掛け弟子がどんどん集って一大私塾が出来上がりました。ですからこの文章は、素晴らしい人物は引退してもなかなか世間がほっとかない、と理解できます。

26 しゅういわ 子游曰く、きみ 君につか 事へて しばしば 数 すれば ここ 斯に はずか 辱 しめらる。 ほうゆう 朋友に しばしば 数 すれば ここ 斯に うと 疏んぜらる。

子游が言うには、主君に仕えていて、その主君の欠点を直してもらおうと頻繁に諫言すると、そのうち主君から仕返しをされる。友人に対して欠点を直すべきだと頻繁に諫めると、友人は嫌がってだんだん遠ざかってゆく。

ほどほどにするが良からうということです。

渋沢栄一はこの部分の述懐で、「自分も若い頃はこのような失敗をしたけれども、この年になったなら人さまに諫言する時は遠回しに、短氣をおこさず、ほどほどに丸くやれるようになった」と書いています。ちなみにこれは「85 歳の見解でございます」とも書いてありました。渋沢栄一も最初は血の氣が多くて、高崎城の乗っ取りや横浜の異人館の焼討ちする計画を企てました。80 歳を過ぎないとなかなか血の氣が治まらないのだ、ということが書き残されています。

本日は以上です。有難うございました。